

# 学校教育高度化センターこの1年の活動

小玉 重夫（センター長・教育学研究科基礎教育学コース 教授）

## はじめに

根本彰前センター長の後を引き継ぎ、本年度からセンター長の任にあたることとなった。

学校教育高度化センターでは、2010、2011年度の2年間、「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」を研究課題として設定し、本年度はその2年目である。また、今年度からは新たに、後述するように科学研究費補助金基盤研究A「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研）が採択され、この科研を軸に、センターの研究活動が加速された一年であった。

今年度のセンターは、センター長のもとセンター研究員（佐藤学教授、勝野正章准教授）および専任助教（植阪友理助教）のスタッフに加え、研究員として木村直恵准教授（学習院大学）、外国人客員准教授としてクリスティン・リー准教授（ナンヤン工科大学・国立教育研究所：2011年11月21日から12月20日まで）、コウ・ポー・ユク准教授（香港教育大学：2011年11月21日から12月20日まで）を迎えた。

## 本年度の活動の概要

### （1）科学研究費補助金基盤（A）の採択

今年度から、科学研究費補助金基盤研究A「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーションの理論的・実践的研究」（通称イノベーション科研）が採択され、本センターを中心として研究に取り組むこととなった。このイノベーション科研は、2010、2011年度のセンター研究課題である「学校における新たなカリキュラムの形成：次の学習指導要領改訂を展望して」をもとに、

それを発展させて、新たなカリキュラムの形成を「カリキュラム・イノベーション」として概念化しようとするものである。特に、アカデミズムにおける学問体系を高校・中学・小学校へとおろしていくように構成されていた従来の教科カリキュラムの構造を転換し、職業や政治経済を中心とする市民社会生活との関連（社会的レリバンズ）を有するカリキュラム（社会に生きる学力形成）を構想しようとする点に、その特徴がある。

教育学研究がよってたつ学問諸領域の高度化に伴い、教育学研究の分散化、タコソボ化という問題が指摘されるようになって久しい。そうした問題を克服するために、本科研がめざすカリキュラム・イノベーションは、学問諸領域の高度化をふまえたうえでの、教育学研究の独自性を再定義する概念戦略という面も、うちに含んで構想されている。

科研の研究組織としては「基幹学習ユニット」「生き方の学習ユニット」「社会参加の学習ユニット」の3つのユニットを設け、さらに、東京大学教育学部附属中等教育学校との連携を可能にするための組織として「総括ユニット」を設けて大学と附属学校等とを架橋するプラットフォーム的役割を持たせた。

附属学校との連携に関しては、附属学校と研究科の教員が協働して、イノベーション科研に取り組む13の研究プロジェクトを立ち上げ、共同研究を開始した。

各ユニットと附属との連携に関する本年度の活動状況については、本年報に報告が記載されている。

また、本科研に関連して、学術支援職員として高橋徳子氏を採用した。

## (2) 院生プロジェクトの実施

学校教育高度化センターでは、センターが設定した研究課題について、公募型の研究プロジェクトを実施している。昨年度は、教員と大学院生の双方に対して公募を行ったが、今年は教員が多く参加するイノベーション科研が始まったので、センターとしては大学院生を対象とした公募型研究プロジェクトを実施した。院生がカリキュラム・イノベーションへ向けての研究フロンティアを開拓する担い手となることを期待して、研究科内で公募をした。その結果、大学院生グループ7件を採択し、2011年6月から2012年2月までの9ヶ月間研究を行った。7月、10月、2月に中間発表会を行い、3月8日には公開で最終発表会を行った。

各グループの研究は社会学、心理学、情報学、哲学、政治学、歴史学といった複数のディシプリンに依拠しており、取り組まれたテーマも多様であった。しかしどの研究も、教育そのものの組み替え、カリキュラムのイノベーション（革新）に迫るという点では共通の志向性を有していた。院生プロジェクトの研究は、イノベーション科研にも実質的な貢献をし、教育学の学としての存在根拠を問い直す可能性を秘めた意欲的な研究が行われたと判断している。

院生プロジェクトについては、報告書を作成し、東京大学学術機関リポジトリにも掲載する予定である。

## (3) 公開シンポジウムの開催

12月10日（土曜日）の午後1時から5時まで、本郷キャンパス内の福武ホール・ラーニングシアターで、センター主催の公開シンポジウムを開催した。「社会に生きる学力形成をめざしたカリキュラム・イノベーション―理念と方向性―」と題し、イノベーション科研の事実上のキックオフイベント的なシンポジウムとなった。

当日は雨天の中、年末の多忙な時期にも関わらず、200名を超える参加者があった。シンポジウム

の詳細は、本年報に収録している。

## (4) それ以外の活動

「はじめに」でも記したように、クリスティン・リー准教授（ナンヤン工科大学・国立教育研究所）と、コウ・ポー・ユク准教授（香港教育大学）という二人の外国人客員准教授を迎え、議論の場を設けることができた。特別講義や連続セミナーを開催したほか、研究科長を含めて議論する場をコーディネートし、教育学研究科の教員や院生などと個人的な打ち合わせも含めて活発に議論を行い、今後の研究交流のきっかけともなった。

また、研究科の教員が関わっている研究会等への後援を行った。これらについても、本年報に報告が記載されているので、参照されたい。

本センターでは、以上に記した研究活動以外に、研究科内での日常的な研究支援業務を行っている。たとえば、研究科の教員等が関わっている研究会や学会等へのパソコン、プロジェクト、スピーカーなどの貸し出し、ホームページを通じたセンター関係の研究会情報の提供などである。

## おわりに

今年は、イノベーション科研の一年目で、研究組織の立ち上げと理念と方向性の検討、研究の準備に主要な活動があてられた。それをふまえて、次年度からは、本格的な研究の実施が行われる予定である。特に、附属中等教育学校との連携による研究プロジェクトの実施が本格化するので、センターとしても、それを支援するための方法を検討しているところである。

最後に、本年度のセンターの活動に際して、多大な支援をして下さった市川伸一研究科長、運営委員の勝野正章准教授、恒吉僚子教授、牧野篤教授に、厚くお礼を申し上げます。

## センター組織

センター長	小玉 重夫 (センター長・教育学研究科 基礎教育学コース)
研究員	佐藤 学 (教職開発コース)
研究員・運営委員	勝野 正章 (学校開発政策コース)
運営委員	牧野 篤 (生涯学習基盤経営コース)
	恒吉 僚子 (比較教育社会学コース)
助教	植阪 友理 (教育学研究科学校教育高度化センター)
外国人客員教授	Christine Lee (シンガポール国立教育研究所 :11月21日～12月20日)
	Ko Po Yuk (香港教育学院学習研究センター :11月21日～12月20日)
協力研究員	木村 直恵 (学習院女子大学)
	堤 ひろゆき (基礎教育学コースD1)
	山口 恭平 (基礎教育学コースD1)
	井田 頼子 (比較教育社会学コースD1)
	浅石 卓真 (生涯学習基盤経営コースD1)
	青木 洋子 (教育心理学コースD3)
	司城 紀代美 (教育心理学コースD3)
	曾山 いづみ (臨床心理学コースD2)
学術支援職員	高橋 徳子 (教育学研究科学校教育高度化センター)